

# 中学校鑑賞指導において現代音楽を教材として扱うことの有効性

Validity of treating contemporary music as teaching materials  
in appreciation instruction at junior high school

松井 裕樹<sup>1</sup>・松永 洋介<sup>2</sup>

HIROKI MATSUI and YOUSUKE MATSUNAGA

キーワード：中学校音楽科 鑑賞 教材選択 少ない授業時間数 現代音楽

## 1. 問題の所在と研究の目的

現在、小学校音楽科及び中学校音楽科の学習指導要領には「A 表現」と「B 鑑賞」の2つの学習すべき領域が示されている。しかし現状は、多くの学校で「A 表現」の学習に多くの時間が使われており、鑑賞の授業時間数は少ない傾向が強い。この背景には、時間数が限られていることや、生徒一人ひとりの持っている音楽的能力などの事情のほか、合唱が学級作りや学校作りの一つとして位置づけられているといった様々な要因があるように思われる。このことについて金本は「少ない授業時数の中で鑑賞指導は、歌唱や器楽の表現指導の合間にわずかな時間の中で行われているのが現状である」<sup>3</sup>と指摘している。また、金本は平成元年告示の小学校学習指導要領作成当時、文部科学省の教科調査官であっただけに、この指摘は全国的な傾向を踏まえての発言と考えられる。

では、少ない授業時間の中で効果的な鑑賞の学習を進めるにはどうしたら良いのだろうか。

第一に、生徒が興味・関心を持って学習に臨むことのできる教材選択が大切である。第二に、授業の中で聴くこと以外の活動を多く取り入れることである。たとえば、楽譜を見ることや、実際に演奏することなどである。それは、こうした活動が取り入れられることによって、ともすれば楽曲を聴くだけの受動的な学習になりがちな鑑賞が、能動的な学習に発展するからである。

以上の観点から、本稿では現代音楽を取り入れた鑑賞の授業について考察を行う。現代音楽の中には、ヘアピンやコンピュータなど、普段楽器として用いられることのない物が取り入れられた楽曲や、図形で表された楽譜による楽曲など、珍しいものが多い。また、作曲された年代も生徒たちの生きている現代であり、意欲喚起につながるものであると考えられる。さらに、楽譜を見てすぐに演奏可能な曲もある。これは、鑑賞の授業に生徒の演奏を取り入れることにつながる。限られた授業時間の中での鑑賞授業に、現代音楽を取り入れることの実効性を検証する。

## 2. 鑑賞について

金本は鑑賞について、「音楽を深く鑑賞する活動は音楽科が目指す資質・能力育成の要であり、子どもたちの音楽的成長に欠くことのできないものである」<sup>4</sup>と述べている。さらに、「鑑賞とはもともと歌うことや楽器を演奏すること、音楽を作ることや音楽を聴くことといった、すべての音楽活動の根底となりかかわるもの」<sup>5</sup>、「子どもたちの音楽の学習活動は、音楽の鑑賞活動に始まり鑑賞活動に終わるといっても過言ではない」<sup>6</sup>とし、鑑賞が音楽の学習全般に関わるものとして、その重要性を

1 岐阜大学教育学部非常勤講師（音楽Ⅰ，Ⅱ担当）

2 岐阜大学教育学部音楽教育講座

3 金本正武ほか（2006）、「小・中学校における音楽科の指導と評価のすすめ方について—鑑賞指導をととして—」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻，p.141

4 同上書，p.141

5 同上書，p.142

6 同上書，p.142

強調している。同様に、寺田は「鑑賞教育は音楽教育の単なる一つの指導領域ではなく、あらゆる音楽教育活動に関わる、音楽教育全体を支えるもの」<sup>7</sup>とし、音楽教育における鑑賞教育の重要性を述べている。また、村澤は「音楽科の学習において、鑑賞は非常に重要な意味を持つ」<sup>8</sup>としている。このように、音楽を学ぶ上で鑑賞の学習が非常に大切な役割を果たしていると考えられる人は多い。

しかし、先にも述べた通り、鑑賞の授業には様々な困難を含んでいるといえる。少ない授業時間の中で行わなければならないといった問題のほかに、評価の難しさや、子どもたちが静かに鑑賞しないといった問題も挙げられており、金本はこれらのことを「多くの小学校で聴かれる音楽担当教師の悩み」<sup>9</sup>としている。

また、その授業スタイルにも重要な課題がある。そもそも、鑑賞の授業といえば、CDなどから流れる音楽を聴き、感想を交流する中で、その楽曲の良さや時代の特徴を感じ取り理解する学習というイメージがあるが、こういった鑑賞授業について、齋藤は「昭和初期から続いている鑑賞授業のスタイル」であるとし、「同一曲で一斉に鑑賞し、全生徒に教師が期待するような感想を要求するというような鑑賞授業のスタイルは限界に近づいている」<sup>10</sup>と指摘している。また、金本も「じっと静かに音楽を聴く活動、単に音楽を聴取する学習活動として捉える傾向が強い」<sup>11</sup>と指摘している。このような課題を含む鑑賞学習において、次のような視点が重要なポイントとして挙げられている。

まず、鑑賞に取り上げる教材についてである。これは、限られた音楽の授業の中で効果的な鑑賞学習を行うために、非常に重要な課題であるといえる。このことについて齋藤は「生徒たちの興味や関心を惹きつけることができるような教材提示の工夫が必要」とし、教材のほかに教材提示の工夫も重要であると述べている。このほかに、「短時間で扱うことのできるような鑑賞教材」、演奏者を厳選し「できる限り演奏レベルが高いもの」、「映像を伴う鑑賞教材」、などを挙げ、さらに、音楽教師が「教材として扱いたいと思えるような楽曲」<sup>12</sup>で、教師が感動する楽曲を教材として用いることも重要であると述べている。

第二に、鑑賞の授業スタイルである。金本は「鑑賞教材を聴取する活動に加え、主な旋律を口ずさんだり楽曲の一部を実際に合奏してみたりするなど、表現活動も取り入れながら鑑賞指導を進めることが重要」<sup>13</sup>とし、表現活動とともに鑑賞学習を行い、能力を育成することが重要であるとしている。

さらに、この2つの視点は互いに密接な関係にある。従って、鑑賞の授業を行う際には、教材と授業展開を吟味し、その指導計画を明確にすることが非常に重要になってくるものといえる。金本はこのことについて、「子どもと音楽のかかわりの具体的な姿をイメージし、指導計画に盛り込むことが課題」<sup>14</sup>としている。また、このほかに金本は「音楽を聴くための視点(=子ども自身のねらい)を子ども自身が明確にもてるような指導を工夫」<sup>15</sup>することで、身に付けるべき資質や能力を明確にすることも重要であることを述べている。

### 3. 鑑賞学習に現代音楽を用いる意義

現代音楽の定義には曖昧な部分も多く、批判もある。しかし、日常生活の中にあるすべての音を音楽と考えるものや、図形楽譜によって表されたものなどは、その珍しさが生徒の興味関心を喚起するものにもなるのではないかと考えている。つまり、楽曲や授業展開を工夫することで、音楽としては

7 寺田貴雄 (2005), 「草川宣雄の音楽鑑賞教育論」『年報いわみざわ: 初等教育・教師教育研究』26号, p.34

8 村澤由利子ほか (2004), 「初等教育音楽科授業において実際の演奏による鑑賞指導を効果的に行う授業のあり方についての実践的研究」『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』19, p.142

9 金本正武ほか (2006), 「小・中学校における音楽科の指導と評価のすすめ方について—鑑賞指導をとおして—」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻, p.141

10 齋藤忠彦ほか (2005), 「中学校音楽科における鑑賞教材選択の視点と教材例」『信州大学教育学部紀要』114, p.41

11 金本正武ほか (2006), 前掲書, p.141

12 齋藤忠彦ほか (2005), 前掲書, pp.41-42

13 金本正武ほか (2006), 前掲書, p.142

14 同上書, p.142

15 同上書, p.143

様々な批判もある現代音楽が「生徒たちの興味関心をひきつけることができるような教材」<sup>16</sup>に十分なりうるのであると考ええる。

現代音楽を音楽の授業に取り入れることの良さについて「音楽の構造的側面を強調したり、西洋の伝統的な様式にとらわれない自由な様式をもっていたりすること」<sup>17</sup>に理由があると松永は述べている。つまり、音楽の3要素である旋律・和音・リズムの一部が強調されたような現代音楽であれば、子どもに身に付けさせたい資質や能力を明確にすることにつながり、加えて、自由な発想から生まれた現代音楽は、「これも音楽になるのだ」という子どもたちの新しい発見や喜びにつながるはずであるということである。

以上の理由から、限られた授業時間の中での鑑賞において現代音楽を用いることは非常に有効な手立てであると考えられる。ただし、その授業展開や教材選択において、教師の現代音楽に対する理解や指導計画が重要な課題として挙げられるともいえる。

#### 4. 検証授業について

本稿では、現代音楽を用いた鑑賞の実践研究をもとに検証を進めた。検証授業はO市立K中学校3年生155人を対象として平成20年11月に実施した。検証の対象となった学年は、音楽に対して苦手意識を持つ生徒が多く、クラス作りである合唱に対しても熱心な取り組みが見受けられることは少なかった。とくに、朝の会や帰りの会などの毎日の合唱では、歌わされているといった姿勢が強く見られた。この背景には、小学校からの音楽の授業も要因の一つになっているように思われ、要因は複雑であるように感じられた。

また、合唱に対する生徒らの苦手意識は音楽の授業全般に影響しており、鑑賞の授業でも消極的な態度が見受けられた。これは、生徒にとって合唱と音楽の授業は同一であるという意識があり、そのことが、音楽の授業は嫌いだ・音楽の授業はつまらないといった心理につながっているからだと思われる。

そこで、鑑賞の授業に現代音楽を取り入れることで、音楽の授業に対して否定的な感情を持った生徒たちが、音楽の良さに気づき、興味を持つきっかけになるのではないかと考えた。松永は、現代音楽と子どもの情意面との関わりについて、「現代音楽は、子どもがそれまで音楽に対して持っていた既成概念を打ち砕くことがある」<sup>18</sup>と述べている。自由な発想で作曲された現代音楽を鑑賞することは、生徒たちにとって新しい体験となるはずであり、その新しい体験が意欲的な鑑賞の学習につながるものと考えた。

##### (1) 目標

本検証授業の目標を、現代音楽を鑑賞し感想を交流すること、および現代音楽の良さや特徴を理解することの2つに設定した。

##### (2) 題材と指導計画

題材名は「様々な現代音楽」とし、授業時数は全1時間とした。鑑賞に用いた楽曲は、武満徹作曲「木・空・鳥」、四季、ジョン・ケージ作曲「4分33秒」である。授業の展開は次の通りである。

- ① これまで学習した音楽を振り返りながら、現代音楽について興味を持つ。

16 齋藤忠彦ほか(2005), 同上書, p.41

17 松永洋介ほか(2004), 「現代音楽の指導と学習」『学校音楽教育研究』Vol.8, p.20

18 同上書, p.20

- ② 「木・空・鳥」, 「四季」, 「4分33秒」を鑑賞し, 感想を交流する。
- ③ 3曲を通して, 現代音楽の良さや特徴を意見交流しながらまとめる。

### (3) 授業の概要

- ① これまで学習した音楽を振り返りながら, 現代音楽について興味を持つ

鑑賞を行う前に, 生徒が現代音楽について, どのような楽曲があるのかという興味関心を喚起するための時間を設定した。まず, 教師が「クラシック音楽と聞いて連想するものは何か」という発問を行い, 生徒に答えさせた。連想するものについては特にカテゴリーを指定しなかったが, なかなか発表できない学級では, 「作曲家」「時代」などのカテゴリーを指定し, 発言を行いやすいよう補助を行った。生徒から出た意見は次のようなものである。

- ・ きれい
- ・ 難しい, よくわからない
- ・ つまらない
- ・ 古い
- ・ モーツァルト, ベートーヴェン
- ・ 「運命」「魔王」
- ・ オーケストラ

これらの感想は, これまで鑑賞授業で扱ってきた教材が元になっているものと考えられる。そこで, 発表されたイメージを板書し, 「クラシック音楽はきれい」「クラシック音楽は難しい」「ベートーヴェンは運命を作曲した」とカテゴリーを分けてまとめた。

次に, 「では, 皆さんの生活している現代に作曲されたクラシックはどんなものがあると思いますか」と問いかけた。ここでは自分たちの生きている現代に作られたクラシック音楽はどんな音楽なのだろうかと関心を持たせることを目的としたため, 特に発表する時間は設けなかった。

これに続いて「現代音楽の面白さを感じ取ろう」という課題を提示した。

- ② 「木・空・鳥」, 「四季」, 「4分33秒」を鑑賞し, 感想を交流する。

#### ア) 「木・空・鳥」の鑑賞

鑑賞の第一曲目として, 武満徹作曲「木・空・鳥」を鑑賞させた。

ここでは生徒が率直な感想を記述できるように, 曲についての解説は一切行わず鑑賞を行った。生徒らは聴いている間, 「これが音楽なのか」「よくわからない」「怖い」といった感想をつぶやいていた。その後, 感想を自由にプリントに記入させ発表させた。

生徒らが発表した主な感想を以下に示す。

- 生徒1：木がたくさんあるところでは「木・木・木・木」といっていると思う。あと, 「そーらー」と重くいっているところはくもっている感じだと思った。単語で絵を描いている感じ。
- 生徒2：単純な言葉の繰り返しの中で声色を変えて, 色々な感情や風景を表現していると思いました
- 生徒3：3つの単語だけで場面や情景を作る
- 生徒4：言葉だけで演奏している。風景がある。
- 生徒5：楽器のように 会話のように
- 生徒6：言葉でBGMを作り出している。
- 生徒7：歌で怖さを表現している。人の声だけで作られている。

生徒8：「木」「空」「鳥」の言葉だけで構成されている。アンケートのような感じ。

生徒9：メロディーがなくものすごい斬新な作り。

以上の事例から、まず生徒は風景と心情とを結び付けて鑑賞していることがうかがえる。例えば生徒1は、「木がたくさんあるところでは『木・木・木・木』といていると思う」と述べている。このことは曲中の「木」という言葉が短くしかも何度も繰り返されて演奏されることから、木が多く生えているようなイメージを持ったと考えられる。また、「『そーらー』と重くいているところはくもっている感じだと思った」と述べている部分は、演奏中の声の音色を聴くことによって生徒に曇った感じを与えていると考えられる。このことを端的に表しているのが生徒2の「単純な言葉の繰り返しの中で声色を変えて、色々な感情や風景を表現していると思いました」という記述である。この記述から、生徒2が音楽の構成要素である音色や繰り返しという技法を知覚することによって、頭の中に感情や風景を作り出したといえる。

また、生徒3、生徒4も具体的な内容は示していないが、「3つの単語だけで」や「言葉だけで」という記述から、「木」「空」「鳥」という3つの言葉が、音色や速さ、繰り返しなどの音楽的要素で表現されることでそれぞれのイメージを作り出したと考えることができる。また、生徒7は「歌で怖さを表現している」と述べている。この生徒の場合は「木」「空」「鳥」という3つの言葉を演奏するときの音色が「怖さ」をいうイメージを作り出したといえる。

一方、生徒5、生徒6は、楽曲そのものが何かを表現しているようにとらえ、音楽的要素には着目していなかった。しかし、生徒8、生徒9は「言葉だけで構成されている」や「ものすごい斬新な作り」というように楽曲の構成面に着目していた。

しかしながら、1～9以外の生徒では、感想欄が空白であったり、「わからない」といった感想も見受けられたりした。こういった生徒らは、現代音楽への戸惑いがあったり、「何かを表現した音楽」という視点からは何も連想できなかったりしたのではないかと考えられる。

そこで、構成面に着目させるために、この楽曲は「ずらす・重ねる・繰り返す」の3つの技法が用いられ、そのことが音楽的な効果を挙げて聴く者に面白さを感じさせることを説明し、もう一度改めて鑑賞させた。その後、感じたことをプリントに記述させた。

その結果、生徒からは以下のような感想が得られた。

生徒10：繰り返す中で強弱を変えている。

生徒11：音を伸ばしたり連続したり男声と女声の声を重ねたりしている。

生徒12：音楽の基礎で成り立っている。

生徒13：広がる・繰り返す・重ねる

生徒14：言葉を繰り返して新たな言葉を作っている感じがする。

生徒15：音を伸ばす・短くする・間に入れる・リズムを変える・強弱を変える

以上示したように、ほとんどの生徒が聴く前に示した技法を聴き取っていたことがうかがえた。特に「繰り返す」についてはほとんどの生徒が聴き取ることができていた。また生徒11や13のように「重ねる」ことについても聴き取っていた。ところで、生徒15のように「間に入れる」という記述があった。これはずらすよりもインターロッキングのほうに着目していたことを示している。つまり「重ねる」ということの一類型と見ることができる。しかし「ずらす」についての記述はなかった。

2回目に聴くときに視点を示したことで、1回目に聴いたときに感想欄が空白であった生徒も、構成要素に着目した感想を記述することができていた。新しい視点を知ることのできた生徒らは、この曲の特徴を理解することで、音楽を聴く視点を得ることができたといえる。

#### イ)「四季」の鑑賞

次に、武満徹作曲の「四季」を鑑賞させた。

まず、この曲の鑑賞では第1曲目に鑑賞した「木・空・鳥」と同様に、「重ねる・ずらす・繰り返す」の3つの技法が使われているという点が面白い楽曲であることを最初に伝えた。

次に、図形で表された楽譜を拡大印刷し生徒に示した。生徒らは、これまで五線で書かれた楽譜しか見たことがないため、「これが楽譜なのか」といったつぶやきや、「すごい」「おー」などの驚きの声を出す生徒もおり、図形楽譜に新鮮な印象を受けているようであった。これに併せ、楽譜中に示された図形の意味や、用いる楽器について説明を行った。また、4人で演奏することから「四季」になっていると説明を行った。

さらにこの曲の鑑賞では、鑑賞を行う前に曲の魅力について考えさせる時間を設けた。生徒らは、楽譜から音楽を予想したことがなかったため、初めは想像もつかない様子だった。しかし、教師が「楽器・演奏者・場所などのさまざまな要素が変化すると、演奏はどのようになるのか」と問いかけたことで、生徒たちはこの楽曲が幾通りにも演奏可能であることに気づき、驚いていた。

その後、実際にこの曲を鑑賞した。その感想を以下に示す。

生徒16：どんな風にでも演奏可能。リズムは楽しいけど音はつまらない。4人のそれぞれの性格がある。

生徒17：打楽器によって音や音の硬さが違い、追いかけて聞きにくい。同じリズムが聞こえてきた。

生徒18：曲は面白くないけど、とにかくいろんな通りがあることがすごいと思います。結局は音楽の基本をやっているというのですごいと思います。

生徒19：楽譜をみて「ああ、だいたい分かったな」と思いました。自分なりに分析してみたところ、繰り返しているところがわかり面白かった。

生徒20：重なりがよく分からなかった。

どの生徒も、楽曲の魅力や構造について頭では理解しながらも、実際の演奏を聴くと生徒16や生徒18のように「つまらない」「面白くない」といった感想が聞かれた。また生徒20のように「わからない」と回答した生徒もいた。

さらに、生徒17のように「重ねる・ずらす・繰り返す」という構造がわかりにくいと感じる生徒も見受けられた。しかし、そう感じた生徒のほとんどは、その理由を楽器が異なっているためであると分析できていた。

また、楽譜や説明からこの音楽の魅力を感じることに反し、演奏を聴いてそれを感じないことに気づいている生徒も多かった。このことは、現代音楽の持つ課題につながるものであり、重要な気づきであるといえる。そのことを授業の最後のまとめで記述している生徒も見られた。

#### ウ)「4分33秒」の鑑賞

次に、ジョン・ケージ作曲の「4分33秒」の鑑賞を行った。

この曲についても、3楽章すべてが全休符である楽譜を拡大印刷し、生徒に示した。すべて休符である楽曲という、新しい発想に生徒らは興味を持っていた。また、「休符の楽曲をどのように演奏するのか」「何もしないのに音楽になるのか」という疑問をつぶやく生徒もいた。そこで、この楽曲について、「演奏者は音を出すこと以外に何もしないこと」「すべての音が音楽になりうるという考えで作曲されている」という2点を説明した。鑑賞にあたっては、教師が「この曲はCDを聴いて鑑賞するのではなく、皆さんが演奏者になって、周りから聞こえてくる音をスケッチしてみてください」と伝え、この曲の鑑賞については、特別にCDなど用意したものを鑑賞するのではなく、一定時間内に



から得られた記述の中から主なものを以下に列挙する。

- 生徒25：自由に表現できる。  
生徒26：決まりがない。  
生徒27：偶然性。  
生徒28：型にはまっていない音楽で予想できない。  
生徒29：楽しい!!  
生徒30：どんな音でも音楽になる。  
生徒31：ささいな音, 自然の音, 普段聞けない音  
生徒32：視点を変えて聴くと音楽になって聞こえてくる。  
生徒33：身近なものが楽器になる。  
生徒34：楽器が無くても曲ができる。  
生徒35：楽器の音が無くても重なりとかがある。  
生徒36：聴けば聴くほど面白い。  
生徒37：理解して面白い, 知の音楽。

これらの記述から判断すると、生徒は現代音楽の面白さを感じているといえる。特に生徒25, 26, 28のように自由性について記述している生徒は、これまでの伝統的な音楽（いわゆるクラシック音楽）に対してもっていたイメージを変えたといえよう。また、生徒33は「身近なものが楽器になる」と記し、生徒34, 35は「楽器の音がなくても」と記している。これらの記述から生徒がこれまでもっていた音楽についての概念が変わったことがうかがえる。

一方生徒37は「理解して面白い, 知の音楽」と記している。この生徒は音楽の構造に目を向けることで音楽を味わっていると考えられる。

これらの記述をクラス全員で交流した後、授業のまとめとして現代音楽の面白さを考えさせ記述させた。以下に生徒らの記述の主なものを示す。

- 生徒38：現代では聞こえてくる全てが音楽になるということがわかった。だから、音楽は全て偶然でできていると思う。楽器を使った演奏でもまったく同じ演奏もありえないと思った。  
生徒39：音楽っていうものの概念が固定してしまっている状態でこういった曲を聴くと、新鮮な感じがします。欠点はあるけど、楽器から出る音以外に「音楽」を見いだしたということについてはすごいと思った。  
生徒40：今の音楽に大切なのは、色々なものを創りだすアイデア、形にはまらない感性だと思った。  
生徒41：重ねたり繰り返したりして作る音楽は、今まで聴いたことのない音楽で、声でも合唱ではなく、つぶやきや叫びで面白かった。音楽は自由に作れることを知り、今度は違う場所で4：33を演奏してみたい。  
生徒42：今まで聞いたものとは違い、とても面白い音楽だと思った。ただの「音」だけど、それぞれの音に特徴があり、それが重なるだけで、また違うものを見つけられる面白さがあった。  
生徒43：何でも、音が出れば音楽になることを知って、身の回りには音楽だらけなんだと分かりました、すごいと思います。よくたどってみると宇宙そのものが音楽なのかな…と思います。  
生徒44：鑑賞でここまで気持ちいいのは初めてだった。音楽を音楽に、物音を音楽にという考えがとても自由な発想で面白かった。

以上の記述から生徒の音楽についての考え方が大きく変わったことが見て取れる。そして、現代音

楽を楽しんでいる生徒が多く見受けられた。また、感想の発表においても、これまでの鑑賞で聞かれたような情景や風景などの単語にまとめられた画一的な感想はなく、音楽の持つ楽しさを十分に味わった感想が多く聞かれた。

授業の最後に「現代音楽を楽しんだ人はいますか」と発問を行った際には、ほとんどの生徒が挙手をした。第1曲目の鑑賞では「わからない」「怖い」といったつぶやきが聞かれていたので、楽しいと感じる生徒が大多数となったこの結果は少し意外であった。

しかし、同様に「現代音楽を美しいと感じた人はいますか」との発問には、挙手をする生徒はいなかった。つまり現代音楽を聴くことによって楽曲の構造を理解した生徒たちは、その知的な部分に関心を示しているにもかかわらず、美的な面では関心を示さなかったのである。楽曲の構造を理解することは中学生の発達段階として妥当なことであるが、そのことと美しさを味わうのは別だということである。このことは、これまで学習してきたクラシック音楽の良さを再認識するきっかけにつながるといえる。

## 5. 結論

現代音楽を鑑賞の授業に取り入れることは、音楽学習にとって有効である、ということが検証授業の結果から得られた結論である。

今回の研究では、2つの仮説を立てながら実践を行った。それは第一に、生徒が興味・関心を持って学習に臨むことのできる教材を選択することである。そして第二に、授業の中で聴くこと以外の活動を多く取り入れることである。

第一の点についていえば、従来のいわゆる機能音声に基づくクラシック音楽ではなく、音楽の持つ構成要素のなかから一部を強調した音楽を用いたことが有効性につながっている。しかも、生徒がこれまでになじんできた旋律という要素がないために、音楽に対して苦手意識を持っていた生徒も新たな視点から聴くことができたのではないかと考える。そのことは「新鮮な感じがする」「鑑賞の授業がここまで気持ちいいのは初めて」といった発言が生徒自身から出されたことが示している。また、どの曲も短時間で扱うことのできる教材であったことも理由として挙げられる。

第二の点についていえば、今回は鑑賞と同時に演奏を行ったり、聴こえてきた音をスケッチしたりというように、座って聴くだけではない活動を取り入れた。また、授業の中で示した図形楽譜や休符の楽譜は、音楽の専門教育を受けていない生徒にも理解できるものであり、多くの生徒が視覚的にも音楽を理解することができた。

以上の点から、生徒は音楽のもつ構造を理解することによって、音楽についての理解を深めたといえる。しかしながら、鑑賞においては音楽を知覚・感受するだけではなく、批評することも重要である。またその音楽の美しさを味わうという点ではまだ十分とはいえない。これらの点を検討しつつ、現代音楽やいわゆるクラシック音楽の教材性を検討していくことが今後の課題である。

## 参考文献

金本正武ほか(2006),「小・中学校における音楽科の指導と評価のすすめ方について」『千葉大学教育学部研究紀要』第54巻

齋藤忠彦ほか(2005),「中学校音楽科における鑑賞教材選択の視点と教材例」『信州大学教育学部紀要』114

寺田貴雄(2005),「草川宣雄の音楽鑑賞教育論」『年報いわみざわ：初等教育・教師教育研究』26号

松永洋介・木暮朋佳・松下行馬(2002),「現代音楽の指導と学習」『学校音楽教育研究』日本学校音楽教育実践学会 Vol.6

松永洋介・松下行馬・山本真弓(2003),「現代音楽の指導と学習」『学校音楽教育研究』日本学校音楽教育実践学会 Vol.7

松永洋介・松下行馬・榎原聡子 (2004), 「現代音楽の指導と学習」『学校音楽教育研究』日本学校音楽教育実践学会 Vol.8

村澤由利子・吉見隆史 (2004), 「初等教育音楽科授業において実際の演奏による鑑賞指導を効果的に行う授業のあり方についての実践的研究」『鳴門教育大学学校教育実践センター紀要』19

注 この研究は松井が平成20年度大垣市教育実践研究論文「音楽の良さを感じる力を育てる鑑賞指導の在り方～生徒が意欲を持って取り組めるための鑑賞～」に発表した内容を、現代音楽の教材性という視点から松井と松永が再検討したものである。